

スカルコラーゲンの溶解性試験

平成 16 年 7 月 30 日

スカルコラーゲンの溶解性試験

試験依頼者

日本ツナバイト株式会社

試験担当者

株式会社 健康増進 中村千佳

試験機関

明海大学歯学部歯科薬理学講座

試験物質

スカルコラーゲン(日本ツナバイト株式会社提供)

試験方法

スカルコラーゲンを水に入れ、常温(15~25℃)で5分ごとに強く30秒間振り混ぜるとき、30分以内に溶ける度合いを観察した。

日本薬局方通則に基づき、溶解の判定を以下のように定めた。

用語	溶質 1g を溶かすのに要する溶媒量
極めて溶けやすい	1mL 未満
溶けやすい	1mL 以上 10mL 未満
やや溶けやすい	10mL 以上 30mL 未満
やや溶けにくい	30mL 以上 100mL 未満
溶けにくい	100mL 以上 1000mL 未満
極めて溶けにくい	1000mL 以上 10000mL 未満
ほとんど溶けない	10000mL 以上

結果・考察

スカルコラーゲン 1g を水 1mL に加え攪拌し、30 分間観察を行ったところ、

完全には溶解しなかった。しかし同様にスカルコラーゲン 1g に水 5mL を加えたところ、溶液は淡黄色を示したが沈殿などは見られず、完全に溶解した。

従って、常温の水 30 分以内の溶解結果から判定して、スカルコラーゲンは水に溶けやすい物質であるといえる。